



NO. 891
 発行 2016年9月29日
 国鉄労働組合新潟地方本部
 発行責任者 齊藤 仁司
 編集責任者 教 宣 部



地本大会・質疑討論 みんなの意見

○「ときめき」に出向している。昨年からプロパー化が加速している。運転士の免許を持つている人を採用し出向者をJRへ帰している。人件費の関係で会社は動いている。富山の鉄道会社から「ときめき」へ入社。7、8万円賃金が高いと言っている。

安全上の問題もある。そしてエルダーの出向先会社が無くなる。出向先は、現在、ときめき・NTS・整備会社など。JRからの出向を受け入れると人件費を払う。



そのためエルダー職場が少なくなつて来ている。エルダー社員はこれから増えていく。

○エルダーの解除・で出向解除になると直江津では元職場が無い。転勤先が新潟・新津・長岡になる。近くの職場に帰すことが基本だ。直江津地区は職場が無くなった。元職場を長岡にしてほしい。

○支部凍結は賛成だ。中越事務所を早いうちに手を打ってほしい。



地方本部主催 退職者激励会の開催 11月23日(水) 勤労感謝の日・祭日



●出向先の業務について、NTSの朝の点呼・JRの助役からNTSの責任者に指示され、NTSへ責任者が、その内容どおりに業務指示をしている。職場ではJRから直接指示がある。

最近是指令との電話連絡がある。偽装請負が現場で発生している。



○「ときめき」から出向解除で車掌が2名帰ってきて車掌は増えしたがイベント列車などの運行で厳しい要員状況だ。

●今月いっぱいまで退職だったがプロパーで1年契約した。正式な社員として働く。直江津地域分会は実態が無い状況だ。そのため「ときめき」の通学定期料金の問題について直江津だけでは取り組めない。

直江津は高校が無いので通学は電車かバスになる。高田にあるため電車通学になる。運動について市民団体と一緒に取り組むが、組織として実態が無い。勢いだけではやっていけない。

●乗務員のアルコール検知について、赤、あるいは黄の反応が出て不参扱いになった。ドリンクを飲んで反応したらしい。その取扱いは全国的にどうなっているのか。

「いなほ」が本線運転時、鶴岡駅でドアが「開き」で走行した。その乗務員は今月いっぱい日勤になる。会社へどう対応していくのか。分会としてどうしていくのか。

○機関車の砂の問題・珪砂はDLにも(DE10)使用されている。珪砂は安いので7、8年前から使用している。

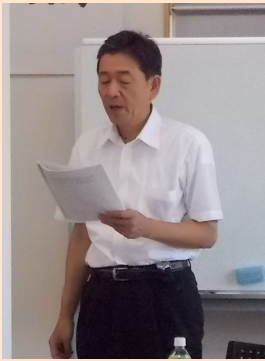
支部凍結は賛成だ。



改善されたが時間が経つとまた以前のよう偽装が当たり前に繰り返される。

信号・誘導の担当者支給されている手当が支給する時とそうでない時がある。

書記長 集約



○職場の労働条件について～要員不足でJR、委託会社でも技術継承が出来ない状況になっている。関連会社へのプロパー採用が無い。委託料の改善など上げていかなければないと要員確保ができない。社員の賃金改善も含めて進めていく。そしてプロパーの組織化を進める。

○組織強化・拡大について～組織対策会議、組織拡大経験交流会を開催しているが拡大に結びつかない。しかし、職場で組合合同説明会に参加し国労加入を訴えることが出来た。今後、各職場に広めていきたい。

○春闘について～ストライキ準備について、新潟は準備不足で出来なかった。貨物はベア0の状況が続いている。スト準備を進め、運動を取り組みストライキが打てるように意思統一し、春闘を盛り上げていこう。



●職場は要員不足が続いている。信通は不足している。エリアの職協でも話が出ています。団交でも出されている。要員がいなかったため超勤で対応している。会社は、それで要員は足りていると判断。技術継承も要員が不足して



いるのでできない。要員を増やしてほしい。人も予算も少ない状況で仕事をしています。



○支部凍結について分会では話し合っていない。組織人員から支部の役割は省いた方がよい。職場のロッカールーム・新規の車掌が増えるのでロッカーを新しくしたいが今までの乗務カバン置き場を代用する。建物は、余裕が無いいためその方向で進んでいる。

運輸区の建設時に部屋が狭いからと要求してきたが現在の状況になった。支社は何を考えているのか。女性社員が少ないが女性社員が配属になった場合を考えてほしい。●職場の社員数は定数いる。しかし研修や出張など発生し要員不足で年休が取得できない。社員7人中、3人が保存年休扱いになった。年休問題が毎年発生している。年休を請求しても特休や公休が入る状況だ。申し込んでも消化できない。年休の買い上げの特例は無いのか。実態に合わせた措置は無いのか。異常時の対応について女性と泊まり勤務だと、夜間、作業の発生は不安だ。支部凍結・分会集会で話し合っていない。組織人員が少ないので経費節減でしかたがない。



○支部凍結について・組織のあり方どうすれば良いのか。支部執行委員会で案を作成し組合員へ理解してほしいと郵送した。7月17日作成、現状でどう充実させるのか、より強力にしていくのか。分会組織の統合、各分会を地域別に考える。

要員不足・分会、班々地本の組織状況でどう運動をつくっていくのか。予算についても、財政上もカバーし効率化していく。凍結について賛成の意見が多い。再雇用・エルダー社員へ出向・エルダー化になると業務内容が変わる。それで続けていけるのか。検修職場で職場に残るが出向で出されてしまう。国労はここでも差別されるのか。



編集後記

新しい執行体制が確立されました。いろいろな課題がありますが地本全組合員が一丸となって取り組んでいきます。私たち地本執行委員会は、その先頭に立って取り組んでいく決意です。ひとりひとりが、出来ることから進めていきましょう。特に拡大については最重要課題です。来春に向けて具体的に取組みを進めていきます。

●支部凍結・分会組織の活性化・見直しが具体的に議論されていない。分会体制と支部凍結とセットで議論すべきだ。職場の除草作業について除草剤が少ない。草刈機が足りなくて作業に追われている。JR本体と協力会社との業務が変更されている。人材の育成、技術継承について厳しい状況だ。○NTSなど関連会社の職場実態はどうか。エリア全体に同一の出向関連会社でまとめていく動きがあるが新潟は一番遅くなっている。

●駅の草刈・駅構内の草刈は日勤者と非番者がやっている。中間駅でもやっている。駅助役の子会社など使ってやれば良いと言っている。他支社でも駅構内は駅社員がするのか。草刈も資格が必要だ。駅で業者へ要請しているところもある。